

岡山県感染症週報 2019年第44週 (10月28日～11月3日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

◆2019年第44週(10/28～11/3)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第42週	5類感染症	梅毒	2名(20代女1名、30代女1名)
第43週	2類感染症	結核	1名(乳児男)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(50代男)
	5類感染症	梅毒	4名(20代男1名、30代男1名、40代男2名)
		百日咳	2名(20代女1名、40代男1名)
第44週	2類感染症	結核	6名(20代女1名、60代男1名、70代男1名、80代男1名・女1名、90代男1名)
	5類感染症	梅毒	3名(20代男2名・女1名)
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1名(70代男)
		百日咳	7名(小学生男2名・女2名、20代男1名、30代男1名、60代男1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○インフルエンザは、県全体で16名(定点あたり0.26→0.19人)の報告があり、前週から減少しました。

1. [百日咳](#)は、2019年第44週に7名の報告があり、2019年第44週までの累計報告数は381名となりました(2018年の同時期：149名)。年代別では小学生(177名、46%)、20歳以上(88名、23%)、0～6歳の乳幼児(74名、19%)が多く報告されています。地域別では、備中地域(112名、29%)、岡山市(100名、26%)、倉敷市(87名、23%)の順で多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児が患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。特に成人の感染時は、風邪などを見分けがつかないまま、感染が広がる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診することが重要です。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
2. [風しん](#)は、2019年第44週までに3名(第2週、第4週、第6週各1名)の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。全国の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
3. [梅毒](#)は、2019年第44週に3名の報告があり、2019年第44週までの累計報告数は172名となりました(2018年の同時期：143名)。1999年以降で年間報告数が最も多かった2017年と同数となっています。なお、第43週に1名の先天梅毒の報告がありました。全国の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。
4. [インフルエンザ](#)は、県全体で16名(定点あたり0.26→0.19人)の報告があり、前週から減少しました。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2019/20年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★★	RSウイルス感染症	↗	★★
咽頭結膜熱	↗	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★
感染性胃腸炎	↗	★★	水痘	↗	★
手足口病	↘	★★	伝染性紅斑	↗	★★
突発性発疹	↘	★	ヘルパンギーナ	↘	★
流行性耳下腺炎	↘	★	急性出血性結膜炎	↗	
流行性角結膜炎	↘	★	細菌性髄膜炎	↘	
無菌性髄膜炎	↗		マイコプラズマ肺炎	↗	
クラミジア肺炎	↗		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↗	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↘：減少 ↓：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症① 風しん

症状等についてはこちらをご覧ください。

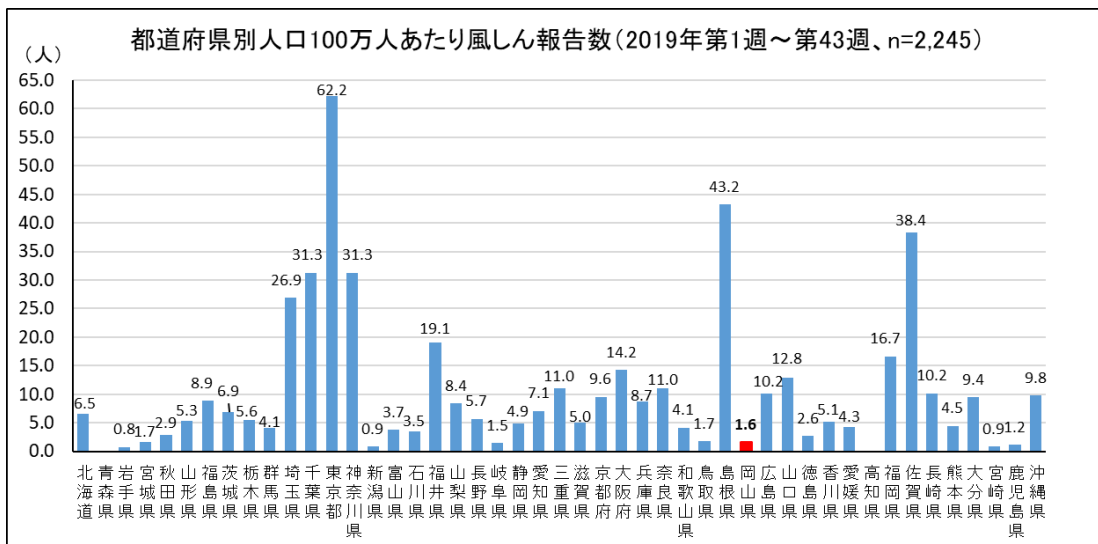
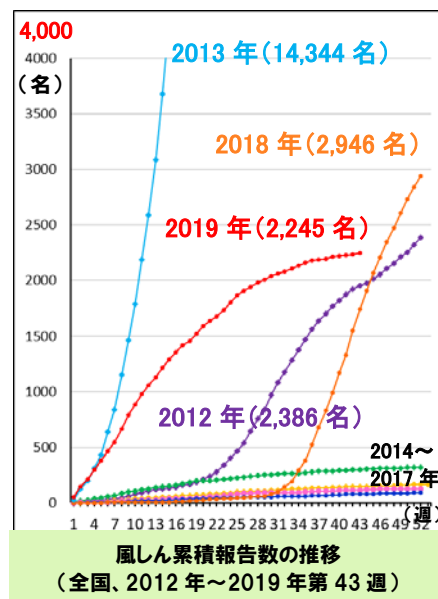
⇒『風しんについて』(厚生労働省)

●全国の発生状況

風しんは、2018年に全国的に流行しました(2018年の全国の風しん届出数：2,946名。2015～2017年の3年間では年間93～163名)。

2019年に入ってから、全国では第1週から第43週の風しん累積患者報告数は2,245名となり、第42週の2,238名から7名増加しました。

2019年第1週から第43週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で17.7人となり、東京都が62.2人で最も多く、次いで島根県43.2人、佐賀県38.4人、千葉県および神奈川県各31.3人と続いています。患者の95%が成人で、男性が女性の3.7倍多く報告されており、特に30～40代の男性に多くなっています(男性患者全体の60%)。



●先天性風しん症候群(CRS)とは

妊娠初期に風しんに感染すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。全国では第44週に1名の発生報告があり、2019年第44週までの累積報告数は4名となりました。

[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\) \(国立感染症研究所\)](#)

風しんの予防について

●風しんはワクチンで予防できます！

妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

なお、医療機関によってはワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県 健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、全国的に始まりました(2019年4月から2022年3月31日まで)。

今年度は**40~47歳**の方を対象に、市町村から風しんクーポン券が送付されており、以下のリストに掲載されている医療機関で、無料で抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

☆この制度についての詳細はこちら

→ [風しんの追加的対策について \(厚生労働省\)](#)

岡山県の2019年4月~8月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、12%となっています！

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

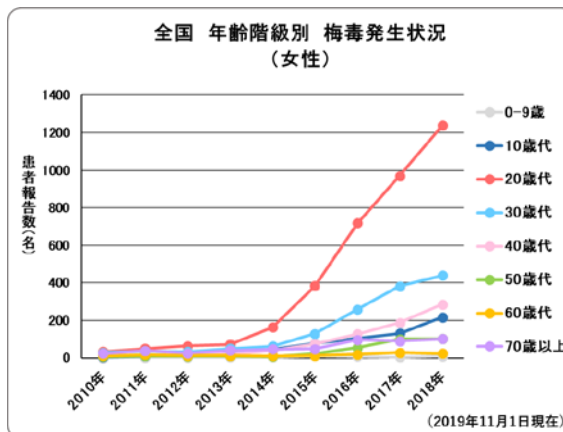
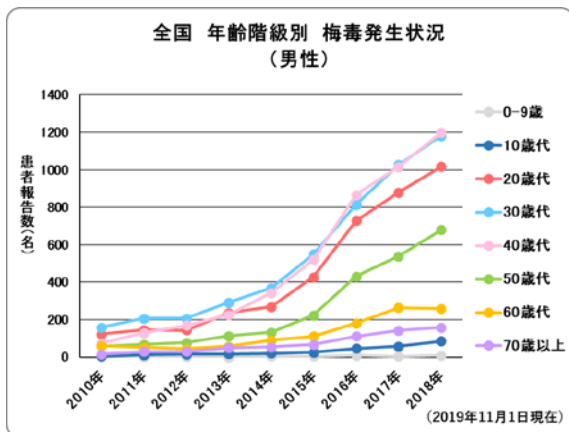
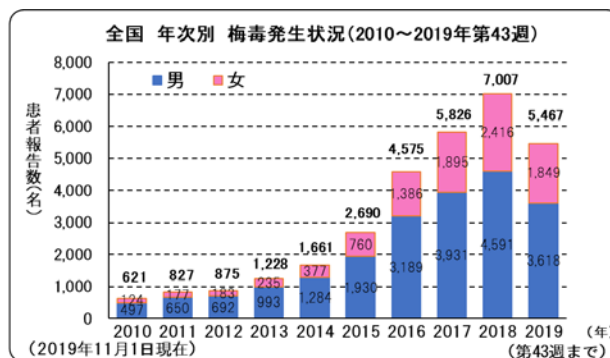


今週の注目感染症② 梅毒

●発生状況

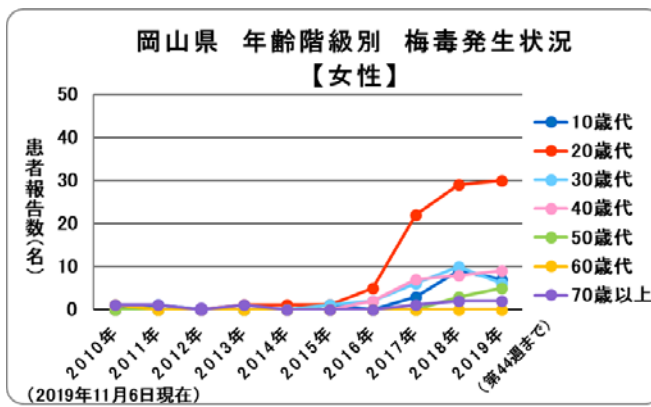
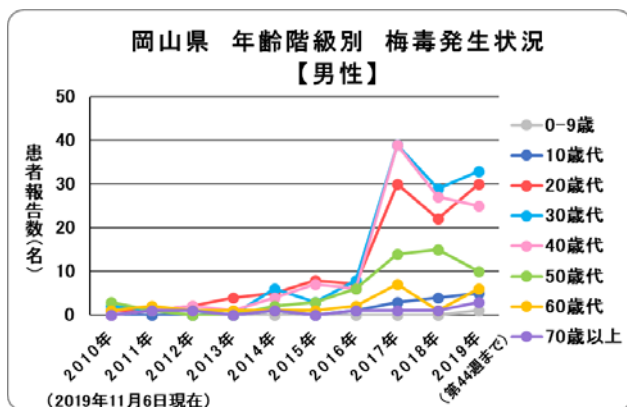
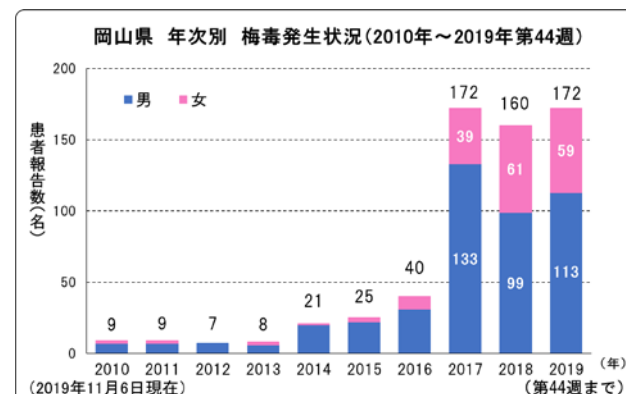
・全国

2010年以降年々報告数が増加しており、2017年には5,000名を超え、2018年には7,000名を超えました。2019年も第43週（速報値）までで5,467名の報告があり、3年連続で5,000名を超えている状況です。近年は、20代を中心とした若年層の女性の報告が多い傾向があり、これに伴って先天梅毒の報告も増加傾向を示しています（2017年9名、2018年17名、2019年第43週（速報値）までで17名）。



・岡山県

2016年は40名、2017年は172名と報告数が急増し、2018年も160名と多くの報告がありました。2019年は第44週までで172名となり、すでに2018年1年間の報告数を超え、報告数が急増した2017年と同数となっています。全国と同様、20代を中心とした若年層の女性の報告が増加傾向にあります。男性は20～40代に多く報告されています。また、岡山県では第43週に1名の先天梅毒の報告がありました。



先天梅毒など、梅毒の情報はこちら ⇒ [梅毒とは（国立感染症研究所）](#)

岡山県の梅毒対策についてはこちら ⇒ [梅毒対策（岡山県 健康推進課）](#)

岡山県内の検査は… ⇒ [2019年度 保健所におけるHIV検査・性感染症検査・肝炎検査日時](#)



梅毒（性感染症）に

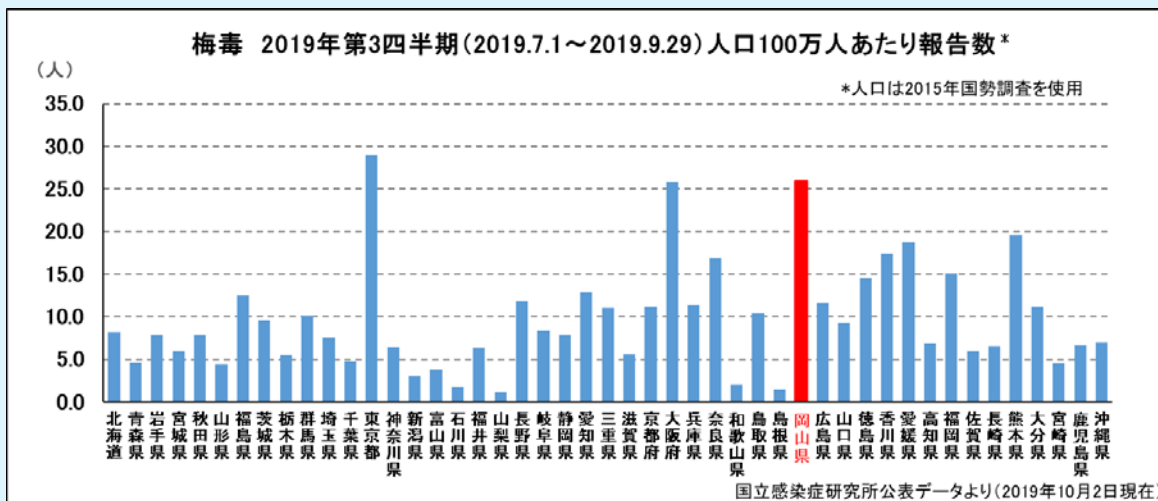
気をつけましょう！

梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真
 (国立感染症研究所 HP より)

●岡山県で梅毒の患者が急増しています！

岡山県は梅毒の患者報告数が多く、人口100万人あたりの報告数で、2018年1年間および2019年第1・第2四半期において、継続して全国3位となっていました。国立感染症研究所の最新の報告では、2019年第3四半期において、岡山県は人口100万人あたりの報告数が東京都に次ぎ全国2位となっています。

全国的にも、近年患者報告数が増加傾向を示しており、注意が必要な状況です。



＜梅毒の人口100万人あたり患者報告数 上位10位の自治体＞

【2018年】

【2019年第3四半期】

順位	自治体	患者報告数	人口100万あたり報告数	順位	自治体	患者報告数	人口100万あたり報告数
1	大阪府	1,188	134.40	1	東京都	392	29.01
2	東京都	1787	132.23	2	岡山県	50	26.00
3	岡山県	160	83.25	3	大阪府	229	25.88
4	熊本県	113	63.23	4	熊本県	35	19.60
5	福岡県	321	62.90	5	愛媛県	26	18.77
6	広島県	178	62.57	6	香川県	17	17.41
7	愛知県	454	60.66	7	奈良県	23	16.86
8	愛媛県	76	54.83	8	福岡県	77	15.09
9	福島県	104	54.34	9	徳島県	11	14.55
10	沖縄県	74	51.60	10	愛知県	96	12.86

●「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたします（早期顕症梅毒）。一方症状の見られない時期もあり（無症候）、多様な症状を示すのが特徴です。進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障がいをもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障がいをきたします（先天梅毒）。

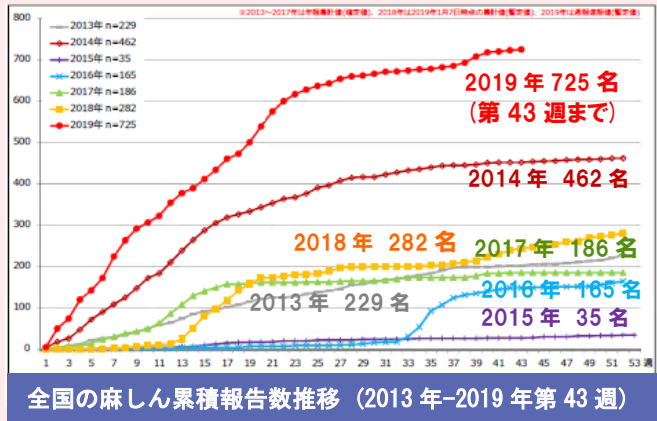
●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えばHIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

麻しんに注意しましょう！

●全国的に麻しん（はしか）の感染患者が確認されています！

全国では、第43週に2名の発生報告があり、2019年の累積患者報告数は725名となりました。



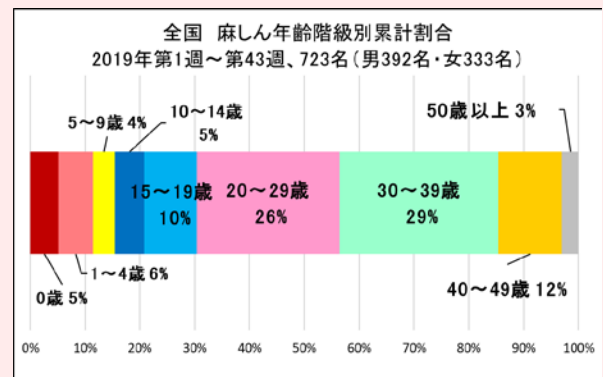
●麻しんはワクチンで予防できます！

麻しんは、2回のワクチン接種でほぼ確実な免疫を得ることができるとされています。1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります。

加えて、麻しん感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください。

この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。

また、これから妊娠を計画されている方や妊婦の周囲の方（特に28歳以上）は、ワクチン接種についてご検討ください。なお、医療機関によってはMRワクチンが不足している場合もありますので、事前に問い合わせることをお勧めします。

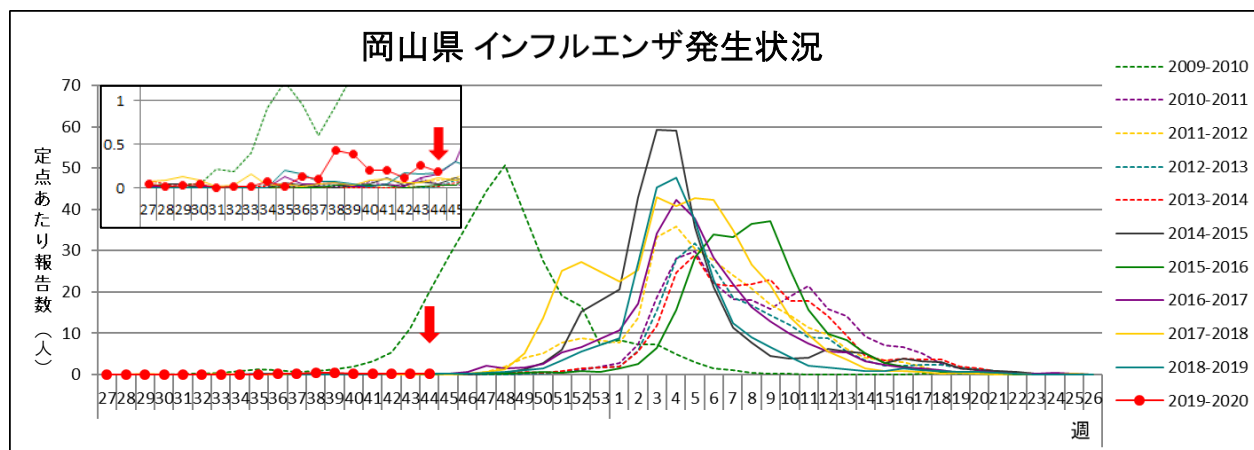


☆症状などについてのリンク ⇒ [麻しんについて \(厚生労働省\)](#) ・ [麻しんとは \(国立感染症研究所\)](#)

インフルエンザ週報 2019年 第44週 (10月28日～11月3日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で16名（定点あたり0.19人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者1名の報告がありました。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、備北地域で8名、美作地域で5名などの報告があり、県全体では16名（定点あたり報告数0.19人）の報告となっています。備北地域では、定点あたり報告数1.33人となり、流行開始の目安とされる定点あたり報告数1.00人を超えています。今シーズン（2019/9/2～）は、例年より早く、第36週（9/2～9/8）から散発的に患者が報告されています。

全国の定点あたり報告数は、第43週は0.80人となり、第42週の0.72人からわずかに増加しました。都道府県別では、沖縄県で定点あたり報告数が多く（8.69人）、九州地方、北海道など11道県で定点あたり報告数1.00人を超えています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、すでに学校等の臨時休業が報告されており、入院患者についても、第44週までで6名の報告がありました。帰宅後や食事前の手洗いの励行等、感染予防に努めましょう。

[IDWR速報データ 2019年第43週（国立感染症研究所）](#)

[インフルエンザQ&A（厚生労働省）](#)

[インフルエンザ 関連情報 2019/20 シーズン インフルエンザワクチン株（国立感染症研究所）](#)

1. 地域別発生状況
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	16	↓	備 中	患者数	0	↓
	定点あたり	0.19			定点あたり	0.00	
岡山市	患者数	3	↑	備 北	患者数	8	↑
	定点あたり	0.14			定点あたり	1.33	
倉敷市	患者数	0	↓	真 庭	患者数	0	↑
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	0	↑	美 作	患者数	5	↑
	定点あたり	0.00			定点あたり	0.50	

【記号の説明】前週からの推移 ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

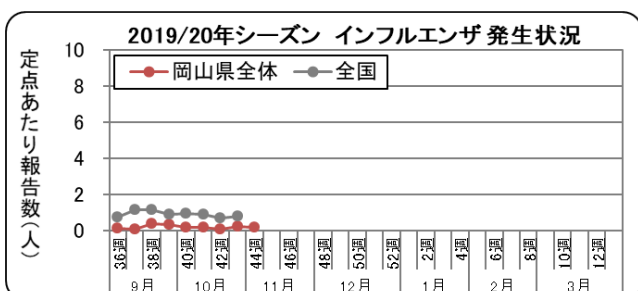
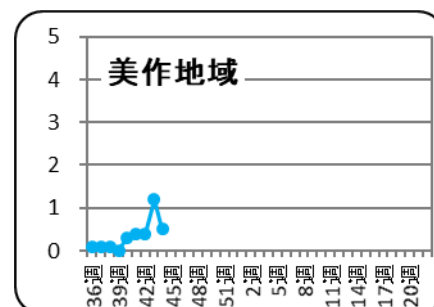
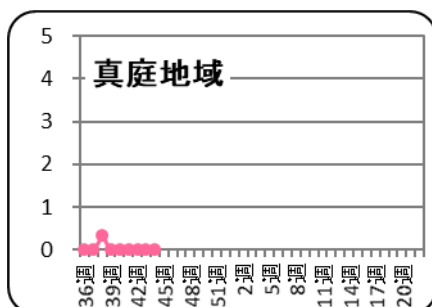
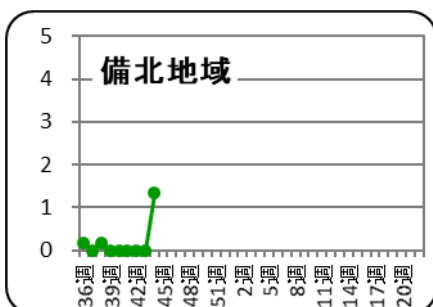
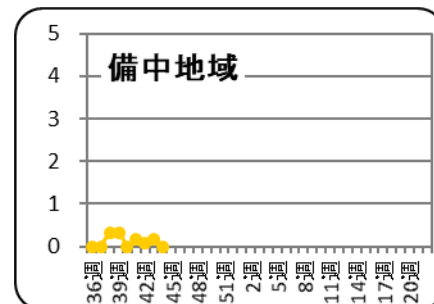
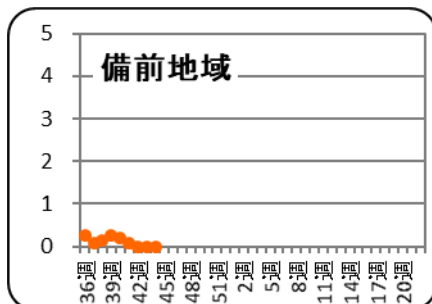
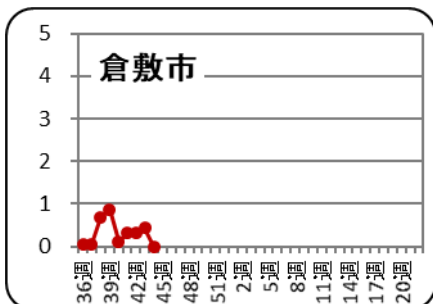
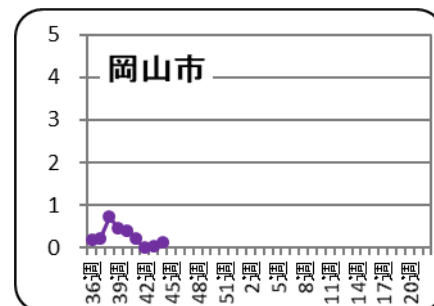
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0

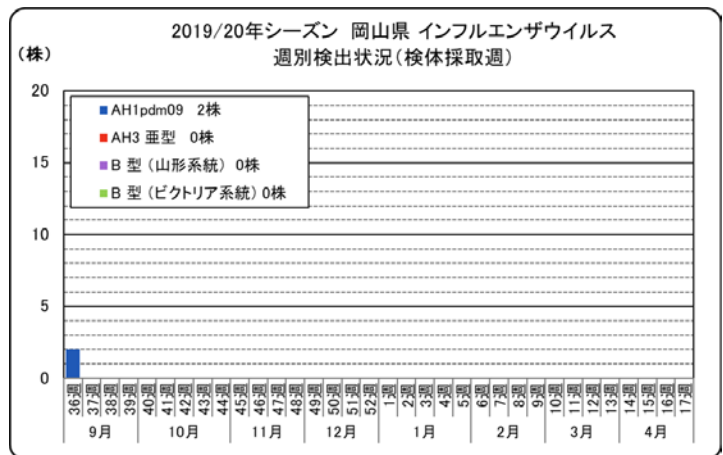


全国集計 2019 年第 43 週（10/21～10/27）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 0.80 人となり、前週（0.72 人）からわずかに増加しました。都道府県別では、沖縄県（8.69 人）、宮崎県（1.83 人）、北海道（1.77 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。11 道県で流行開始の目安（定点あたり 1.00 人）を超えています。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

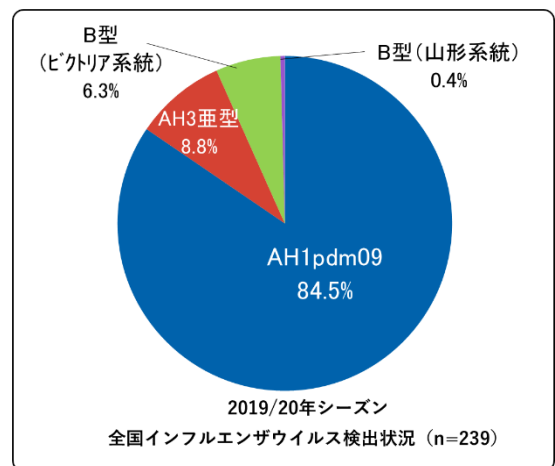
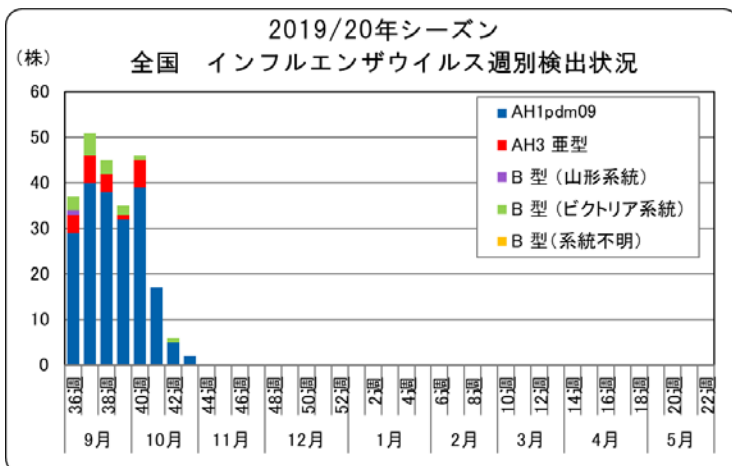
2. インフルエンザウイルス検出状況

2019年第44週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは2株で、全てAH1pdm09です。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が202株、AH3亜型が21株、B型が16株（ビクトリア系統15株・山形系統1株）となっています（11月5日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)

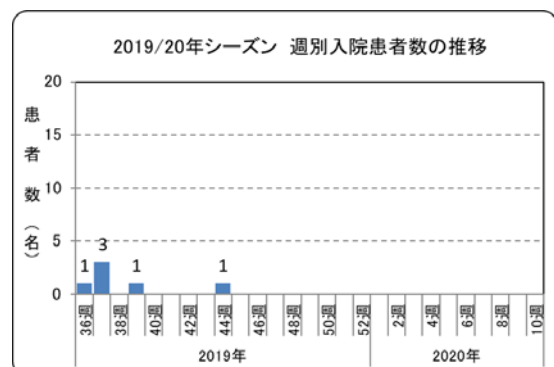
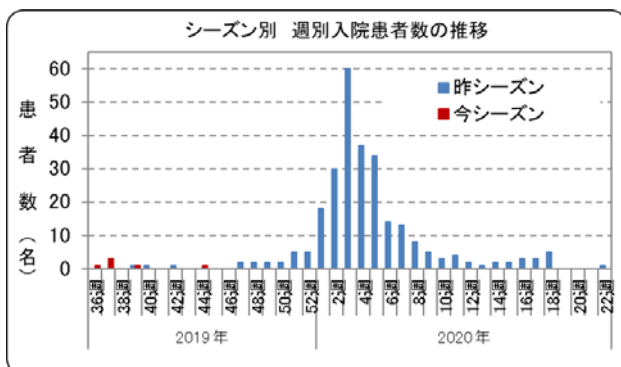


3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした。

4. インフルエンザによる入院患者報告数 (県内基幹定点 5 医療機関による報告)

インフルエンザによる入院患者の報告は、1名 (80歳以上) の報告がありました。幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 44 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数												1	1
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*												1	1
頭部CT検査(予定含)*													
頭部MRI検査(予定含)*													
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず													

【2019年9月2日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数			1	1	1				1			2	6
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*												1	1
頭部CT検査(予定含)*					1								1
頭部MRI検査(予定含)*					1								1
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず			1	1					1			1	4

* 重複あり

◆◆インフルエンザの予防接種はお早めに！◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。

例年本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は、積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方も、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障がいがあり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）により免疫機能に障がいがあり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2019年 44週(定点把握)

(2019/10/28～2019/11/03)

2019年11月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	16	0.19	3	0.14	-	-	-	-	-	-	8	1.33	-	-	5	0.50
RSウイルス感染症	49	0.91	22	1.57	10	0.91	1	0.10	5	0.71	1	0.25	-	-	10	1.67
咽頭結膜熱	18	0.33	10	0.71	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	3	1.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	6	0.43	20	1.82	3	0.30	4	0.57	1	0.25	2	1.00	3	0.50
感染性胃腸炎	223	4.13	82	5.86	49	4.45	42	4.20	10	1.43	11	2.75	13	6.50	16	2.67
水痘	11	0.20	6	0.43	2	0.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
手足口病	18	0.33	1	0.07	4	0.36	3	0.30	5	0.71	5	1.25	-	-	-	-
伝染性紅斑	13	0.24	4	0.29	1	0.09	1	0.10	2	0.29	3	0.75	-	-	2	0.33
突発性発疹	8	0.15	2	0.14	5	0.45	-	-	-	-	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	4	0.07	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 44週(発生レベル設定疾患)

(2019/10/28～2019/11/03)

2019年11月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	16	0.19	3	0.14	-	-	-	-	-	-	8	1.33	-	-	5	0.50
咽頭結膜熱	18	0.33	10	0.71	-	-	1	0.10	-	-	1	0.25	3	1.50	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	0.72	6	0.43	20	1.82	3	0.30	4	0.57	1	0.25	2	1.00	3	0.50
感染性胃腸炎	223	4.13	82	5.86	49	4.45	42	4.20	10	1.43	11	2.75	13	6.50	16	2.67
水痘	11	0.20	6	0.43	2	0.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
手足口病	18	0.33	1	0.07	4	0.36	3	0.30	5	0.71	5	1.25	-	-	-	-
伝染性紅斑	13	0.24	4	0.29	1	0.09	1	0.10	2	0.29	3	0.75	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	4	0.07	3	0.21	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第44週 2019/10/28～2019/11/03)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	16	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	1	-	-	1	3	-	3	-	3

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	49	17	9	16	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	18	-	2	3	3	1	4	1	1	1	1	-	1	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	39	-	-	1	3	2	4	10	3	3	5	3	3	1	1
感染性胃腸炎	223	2	19	40	18	18	18	18	14	12	9	12	18	6	19
水痘	11	-	-	2	-	2	3	1	-	1	-	1	1	-	-
手足口病	18	-	2	8	2	2	1	-	2	-	-	1	-	-	-
伝染性紅斑	13	-	-	-	-	2	1	4	-	3	-	3	-	-	-
突発性発疹	8	-	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	4	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

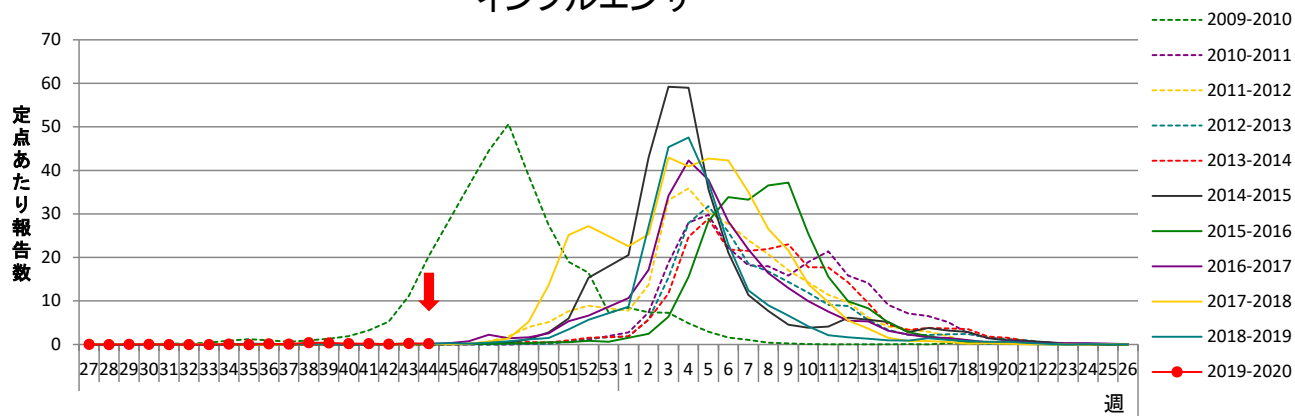
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

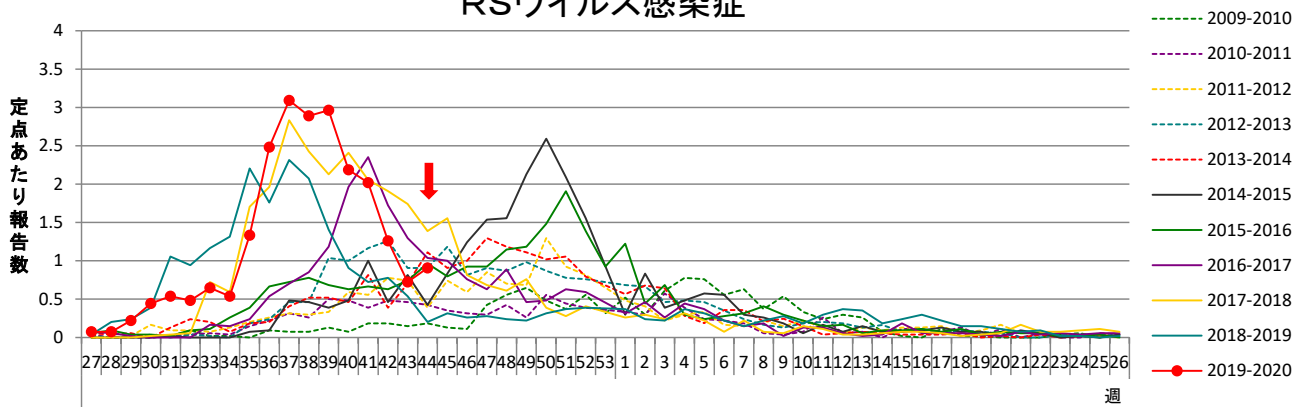
2019年 44週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	251	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	4	16	腸管出血性大腸菌感染症	-	52	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	3	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	3	2
	デング熱	-	6	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	3	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	1	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	51	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	12	15	ウイルス性肝炎	-	9	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	28
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	2	3	急性脳炎	-	16	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	4	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	6	14	後天性免疫不全症候群	-	7	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		-	33	45	水痘(入院例に限る。)	-	9	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		3	172	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	2	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	3	-	百日咳	7	381	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

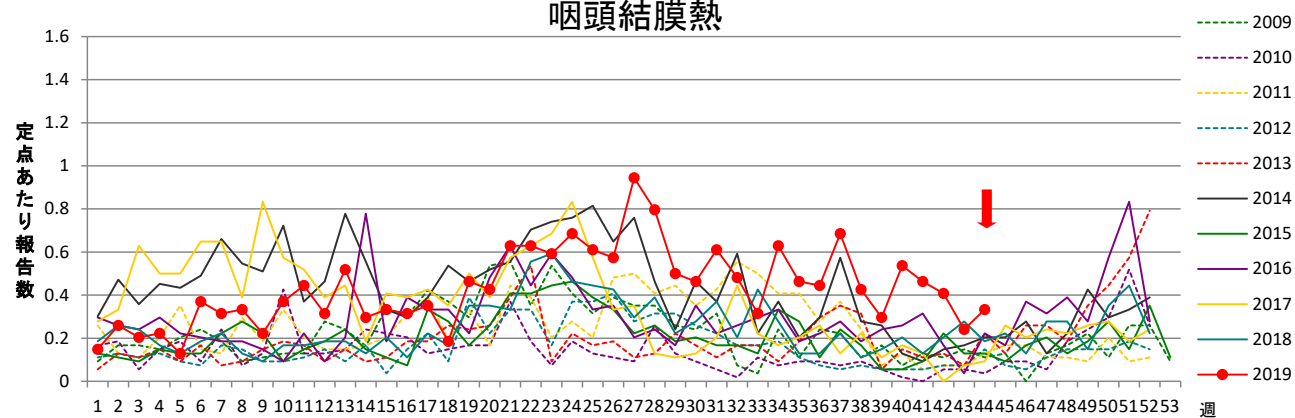
インフルエンザ



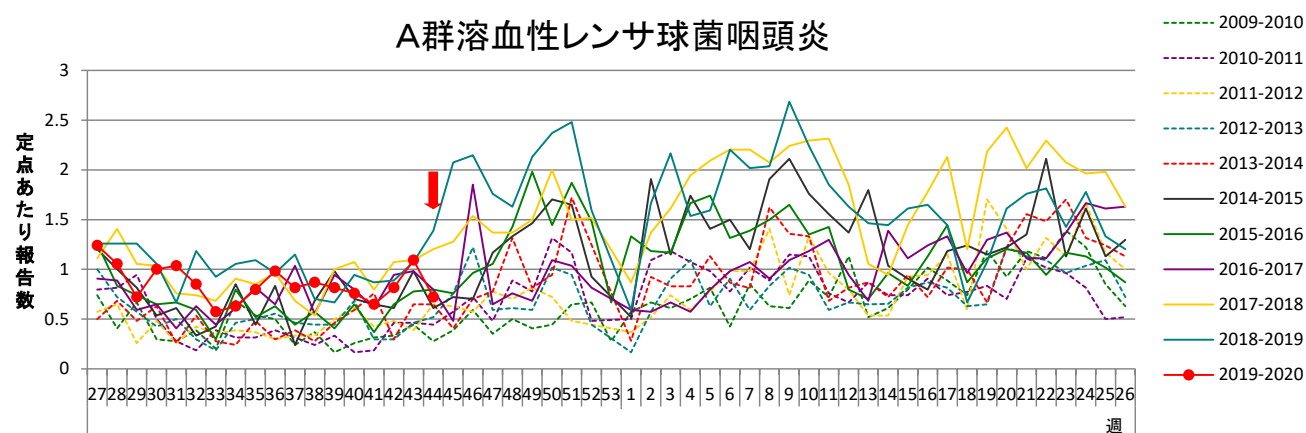
RSウイルス感染症



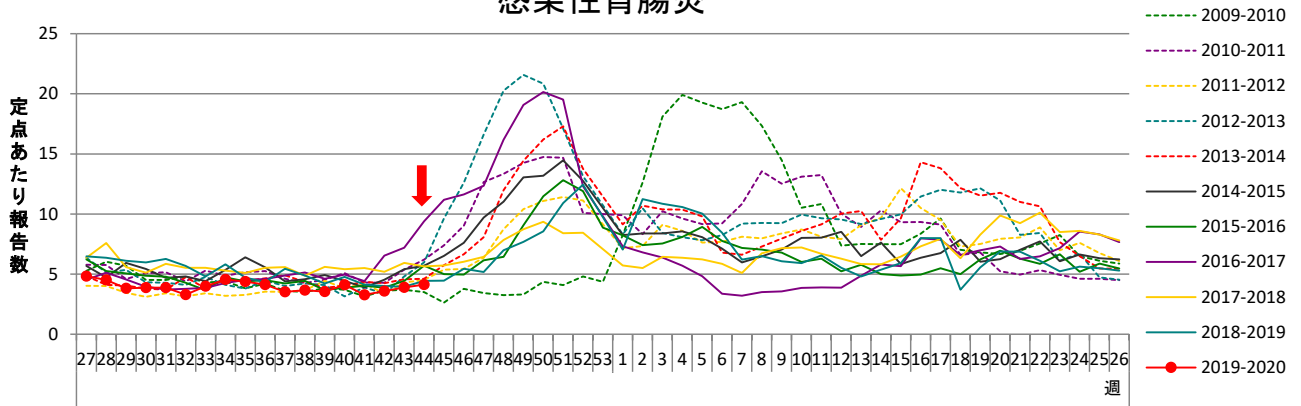
咽頭結膜熱



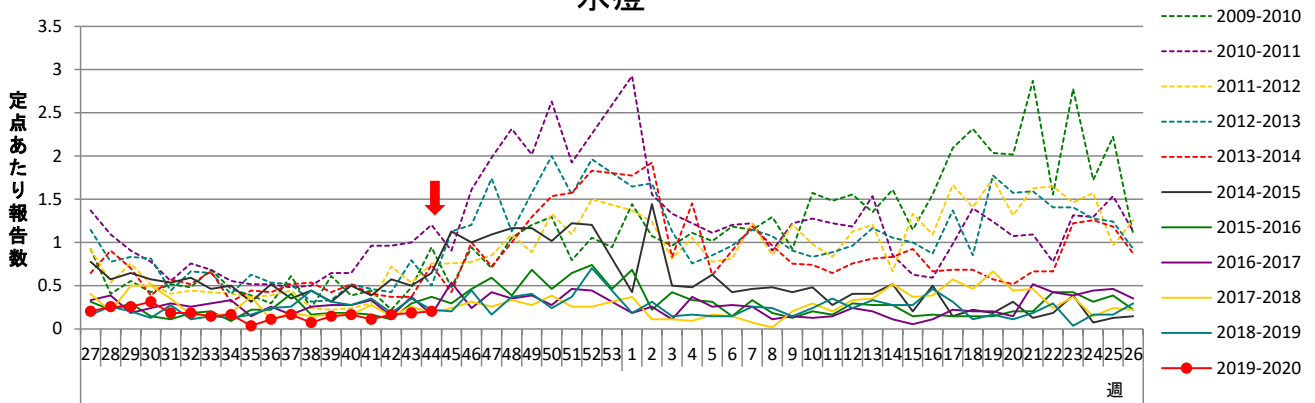
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



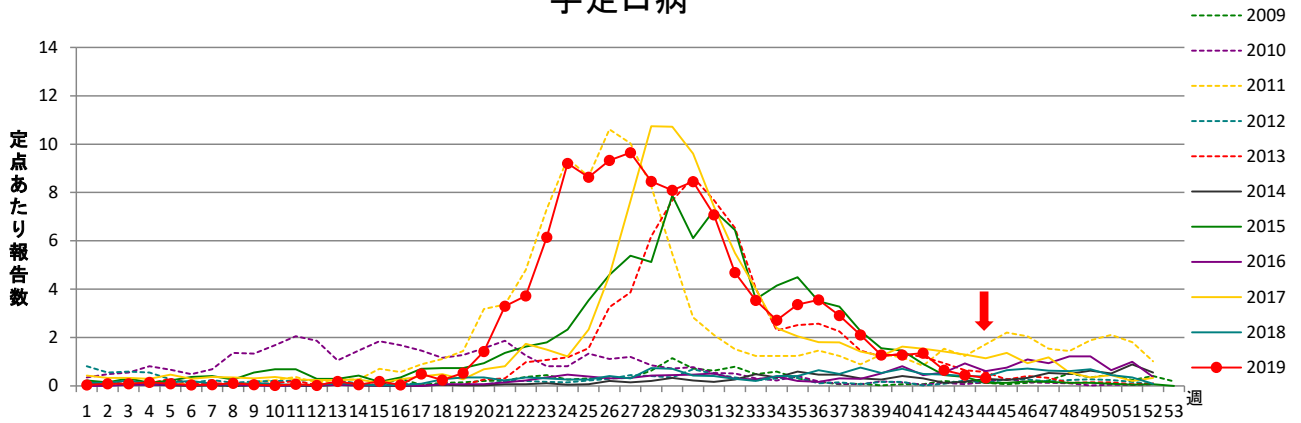
感染性胃腸炎



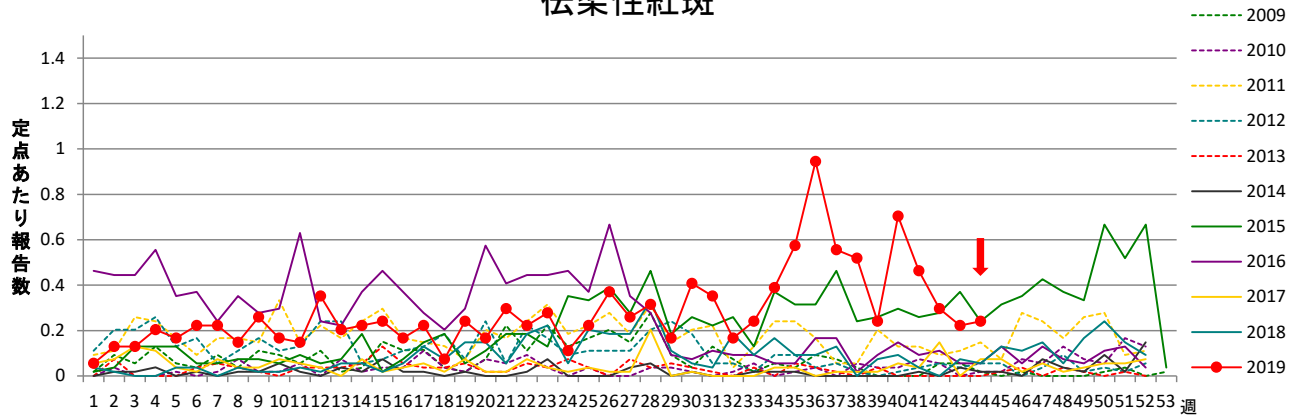
水痘



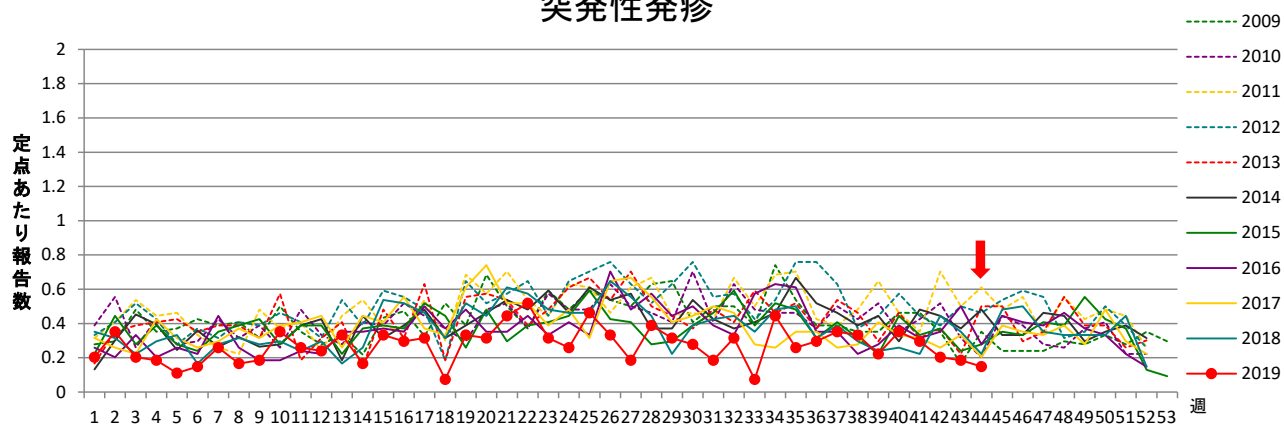
手足口病



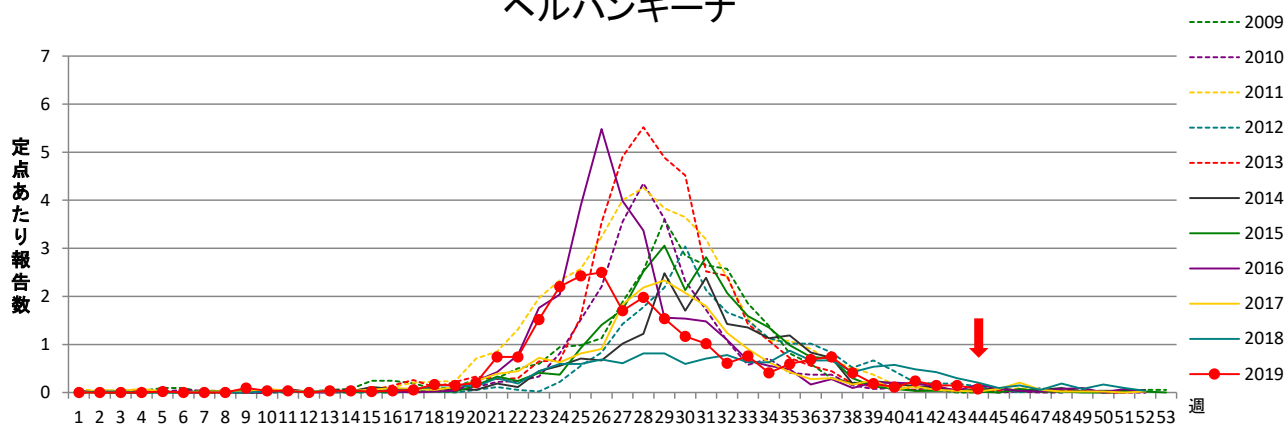
伝染性紅斑



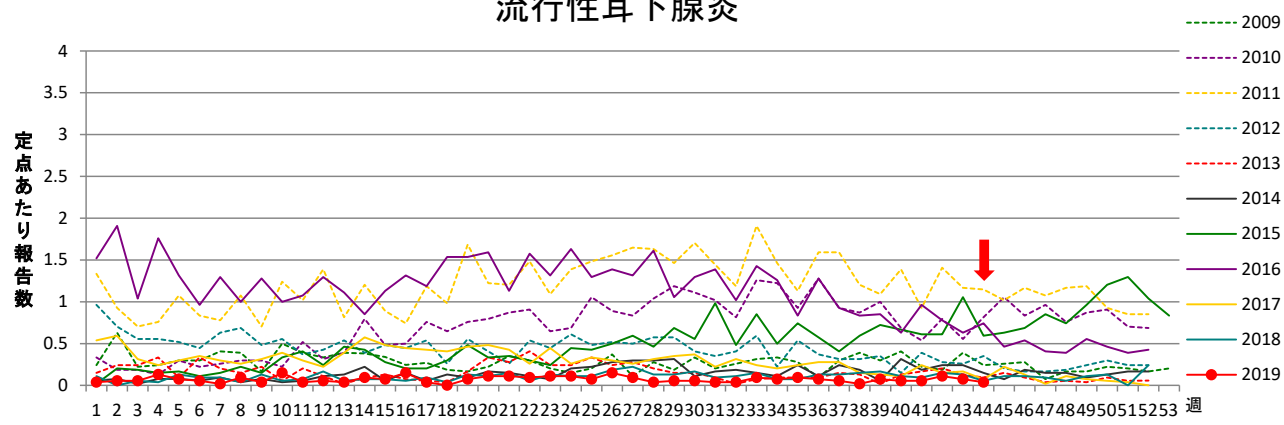
突発性発疹



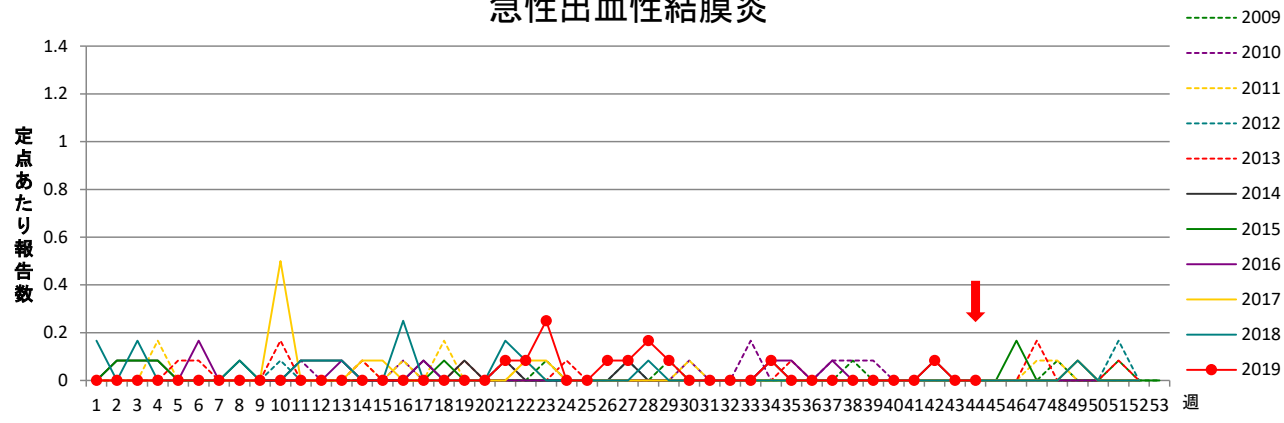
ヘルパンギーナ



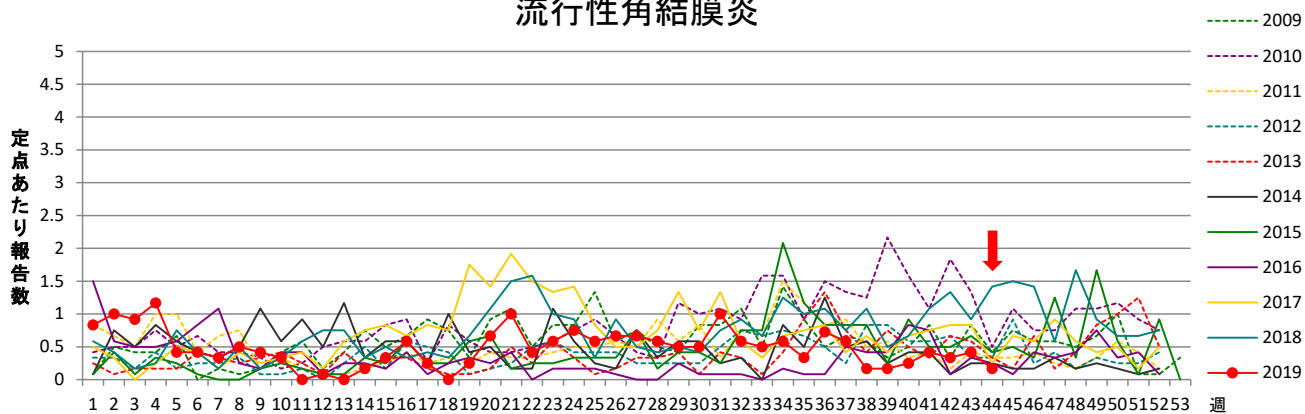
流行性耳下腺炎



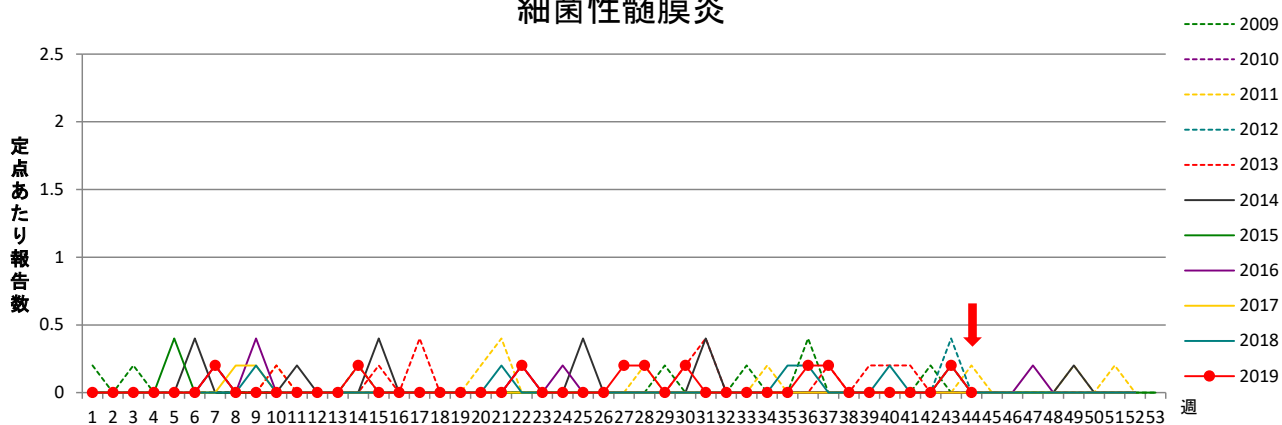
急性出血性結膜炎



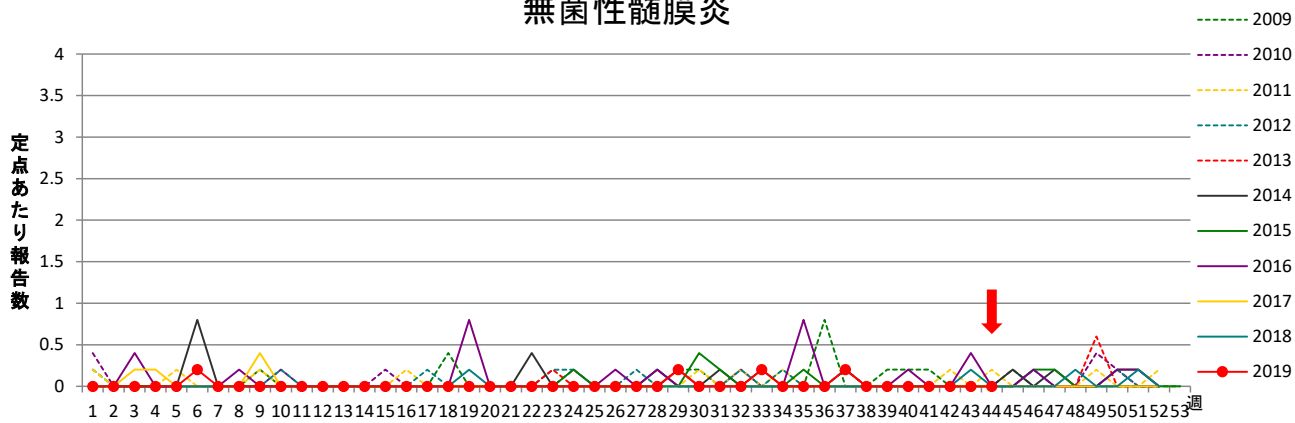
流行性角結膜炎



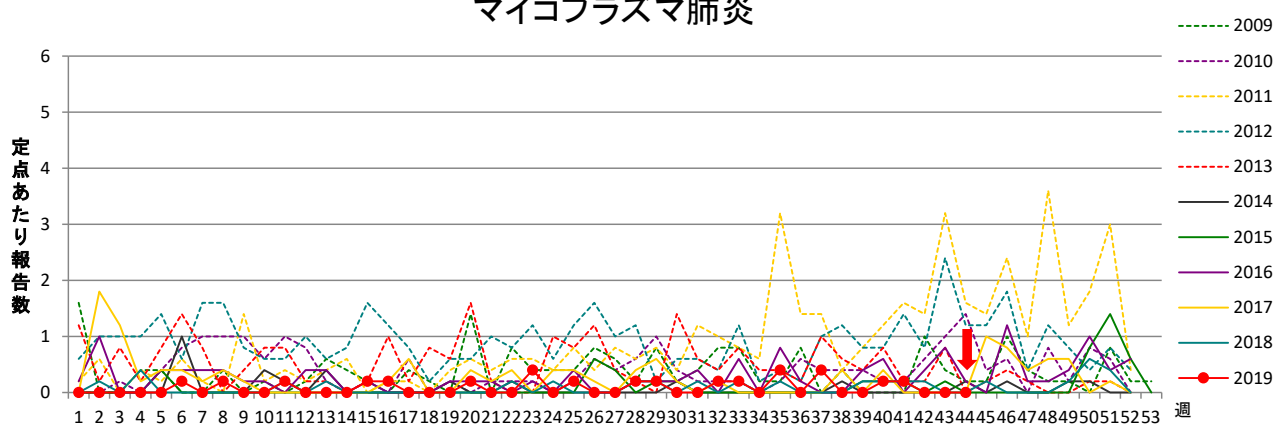
細菌性髄膜炎



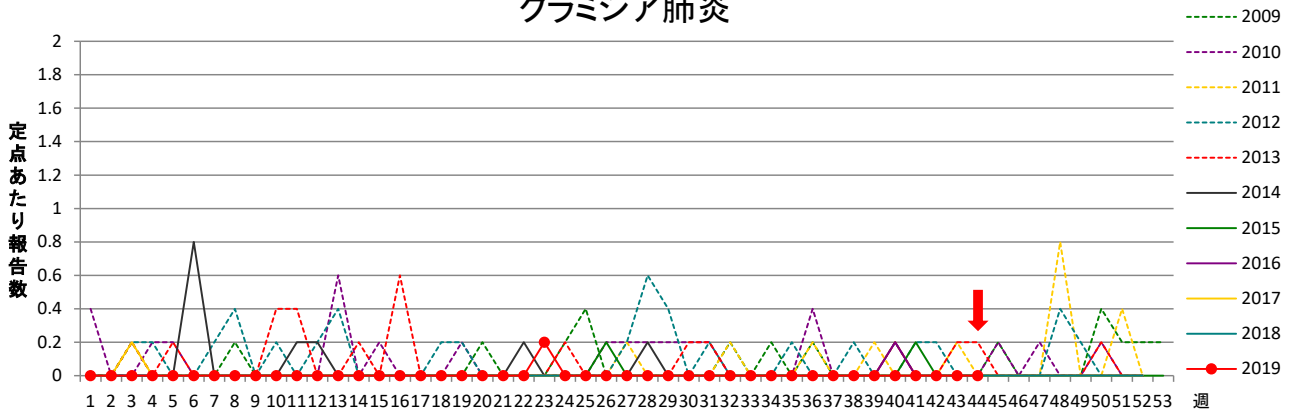
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

